

株式会社ジェイコムイースト 横浜テレビ局

第 21 回 2016 年度 放送番組審議会 議事録

2016 年度の放送番組審議会は、2017 年 2 月 7 日(火)に横浜テレビ局で開催された。

＜放送番組審議会委員＞ (五十音順)

—ご出席—

嶋田 昌子 様	藤江 喜朗 様	三浦 順治 様
三代 裕子 様	山崎 洋子 様	六川 勝仁 様

—ご欠席—

三上 喜美子 様 (委任状あり)

事業者側から局の現況報告、及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(三浦会長による進行)

◆「こどもかいぎ」

委員 「こどもかいぎ」は凄く面白い。取材する学校、および子供への質問はどのような基準で決めているのか？

事業者 学校選びについては、番組がスタートして約 6 年になることから、小学校とのネットワークができており、取材先の校長先生から、次の取材候補先の校長先生をご紹介している。

子供への質問については、取材対象となるクラスの先生から、その時々子供たちに考えてもらいたいテーマを伺い、そのテーマに応じて当社からもアイデアを出して質問を決めている。最近の傾向としては、子供たちから活発な意見が出るよう、例えば「給食は必要か？」など子供たちの生活に密着したものにしている。

◆アニバーサリーイヤーに地域発信番組を！

委員 今年はアニバーサリーイヤーである。具体的には、吉田新田完成 350 周年、馬車道誕生 150 周年、開港記念会館 100 周年、中区制 90 周年などである。

これら取材して地域発信の番組を制作して欲しい。

◆子供たちの国際交流&見応えのある番組を！

委員 横浜には外国の方々が沢山住んでいるので、外国の子供たちと日本の子供たちが本音で意見交換できるような番組を作って欲しい。

また、横浜の街並みは移り変わりが激しく、歴史の遺産が無くなりつつある。横浜の変化を表層的に紹介するのではなく、たまには、じっくりと真面目に取材し、見応えのある番組を制作してもらいたい。

◆「デイリーニュース」&「横浜人図鑑」

委員 夕方6時からの「デイリーニュース」とその後の「横浜人図鑑」を楽しみに見ている。地域の最新情報に加え、地元こんな個性的な人がいるんだということを知ることができる。デイリーニュースのキャスターである大和田悠太さんは好感が持てるし、山崎まさやさんのアクの強さも対照的で良い。

J:COMは色々な層をターゲットにして上手く番組を作っていると感じている。

◆「こどもかいぎ」&東京五輪に向けて

委員 「こどもかいぎ」をいつも見ている。番組に出演している小学生の答えがしっかりしていて、素晴らしい。中でも、外国の子供たちが日頃感じていることを率直に発言していて大変興味深い。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの出場を目指して頑張っている小学校高学年生や中学生にスポットを当て、紹介して欲しい。

◆「デイリーニュース」における取材エリア

委員 「デイリーニュース」で取り上げるエリアに偏りがあるのではないか！？どうしても中心部のネタが多くなりがちだと思う。

周辺エリアに住んでいる方々は、地元の話題がメディアで紹介される機会が少ないため、地元の伝統行事やお店などの価値に気付いていない場合があるのではないか！？

J:COMには、周辺エリアにある地元ならではの宝を紹介することで、多くの人たちがその価値に気付くきっかけを作って欲しい。そのためには、区役所の地域振興課が持っている情報を収集し、活用すべきである。

一方で、「こどもかいぎ」で取り上げる学校のエリアバランスは、上手くとれている。

委員 「デイリーニュース」は、J:COMの看板番組であると思うが、取材エリアの比重はどのようになっているのか？

事業者 「デイリーニュース」は、ご指摘の通り、取材エリアに偏りが出してしまう。我々もなるべくバランス良く各エリアの情報をお伝えしようと考えているが、エリア毎に取材ネタの数、および取材依頼の件数が異なるので、どうしてもばらつきが出てしまう。

なお、制作チームには各区役所とのパイプがあるほか、地域プロデューサーも区役所と連携しているので各区役所から逐一情報を頂いているが、取材エリアにばらつきが出ているのが現状である。

一方、「こどもかいぎ」については、校長先生に取材候補先の学校をご紹介頂く際に、エリアバランスのご相談もしているので、偏り無く放送できていると思う。

事業者 地域プロデューサーとしては、4つの区役所の区政推進課の広報相談係から、毎月、取材希望案件を選定して頂き、それらを制作チームに伝えて取材の有無を編成会議で決めている。

委員 栄区のニュースが多いように思うが？売り込みが上手なのか？

事業者 栄区は前任の区長時代からプロモーションに力を入れ、区長自らが番組に出演してPRするというスタンスを持っておられた。しかし、栄区のニュースが多いという訳ではなく、目立っているだけだと思う。

委員 J:COM 横浜の母体は南区発祥のケーブルテレビ局だったので、かつては南区のニュースが最も多かった。今は南区、中区、磯子区、西区をサービスエリアにしているので、ニュースの数は平均化されつつあると思われる。

委員 J:COM のスタンスはどうなのか？4区均等にニュースを発信する考えなのか、それとも、視聴者ニーズに基づいてニュースを発信しようとしているのか？

事業者 基本的には、4区のニュースをバランス良くお届けするというスタンスである。例えば、成人式や出初式などは、それぞれの区で行われているが、全て取材して放送することは、人員や機材、さらに放送時間の制約があり難しい。そこで、年毎に取材する区の順番を決めて対応している。但し、同じ行事でも、例年と異なる特別なことが行われるといった話題性があれば、そちらの区の行事を取材する場合もある。

◆YouTube への番組アップ

委員 「横浜人図鑑」が放送後、YouTube にアップされることを評価している。見逃した場合に、しっかり、じっくり見ることができる。その他の番組も YouTube にアップされているのか？

事業者 現在は「横浜人図鑑」のみで、文字通り、図鑑のようにアーカイブス化していく考えである。今後、アップを検討している番組は「デイリーニュース」である。

◆再開発プロジェクト等

委員 中区北仲通の再開発プロジェクトが動き出しており、“ミニみなとみらい”と言われるエリアになっているが、意外と知られていないので、取材し紹介して欲しい。
また、横浜 DeNA ベイスターズが、ZAIM（旧関東財務局横浜財務事務所）を横浜スポーツタウン構想の中核施設として活用することになっている。プロ野球のシーズンインの前に、これらの新たな動きも特番等で取り上げて欲しい

◆外国人や障がい者

委員 「横浜人図鑑」や「タなび」に数多くの地域住民が出演しており、時には知り合いが出ることもあり、とても嬉しい思いで番組を見ている。
ただ、その地域住民の中には、外国人や障がい者もいる。彼等は我々の隣人なので、彼等のことをもっと知りたい。外国人や障がい者にスポットを当て、彼等と知り合いになれるような番組を作って欲しい。

事業者 昨年、神奈川県は「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定した。今後、この憲章に基づいた取り組みが具体化していくでしょうから、様々な番組が考えられると思う。

◆ボランティア活動

委員 横浜は市民活動を含めたボランティア活動が活発であると言われている。
住民の課題を解決するために活動している人たちを映像化するのは難しいと思うが、短い時間で紹介して欲しい。例えば、子供たちの通学時に信号機の前で安全に通行できるように見守りをしている方などは、貴重な存在である。彼等に光を当てて欲しい。

◆映像選択上の注意

委員（三浦） テレビは、ある出来事をそのまま映像で伝える訳だが、映像選択において注意して欲しいことがある。例えば、神輿に子供が乗っている様子は絵になると思われがちであるが、神事的には問題なので、神輿に子供が乗っている映像は使うべきではない。取材対象に関する慣習やマナーなどを勉強した上で、番組を制作して欲しい。

◆国際平和スピーチコンテスト

委員 小中学生を対象にした「国際平和スピーチコンテスト」が、毎年、横浜市内で開催されている。各区の予選で選ばれた代表者の中には外国の子供たちが沢山いる。
これは、横浜ならではのことであり、彼等のスピーチには感動させられるので、是非、取材して欲しい。

◆横浜の農業

委員 横浜は中心部の華やかなイメージがあるが、実は農業が盛んなエリアでもある。郊外には野菜の直売所があり、レストランの中には地産地消に力を入れているところもある。横浜のあまり知られていない面でもあるので、移りゆく四季も盛り込んで、農暦の情報番組などを制作して欲しい。

事業者 貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。

既存番組については、一定のレベルで評価して頂いていると感じた。今後は、今回頂いたご意見やご提案に基づいて努力していかなければならない。また、新しい特番や新しい切り口についてのご提案に対しては、できる限り応えていきたいと思っている。

過去にも皆様からのご意見を採用させて頂き、番組を制作したことが多々あるので、今後ともどうぞ宜しくお願いします。

以上